

県育成品種のイチゴに誇り

情熱と愛情注ぐ

東海地方には、おいしいイチゴの品種が豊富に存在します。愛知県の「ゆめのか」、岐阜県の「美濃娘」、三重県の「かおり野」や「よつぼし」、静岡県の「きらび香」。これらは味や形状などに特徴があり、それ

それにさまざまな思いや情熱、愛情を持って農家が栽培に励んでいます。新品种の育成に携わった篤農家や他業種から転身した農家など東海4県のイチゴ生産者を紹介します。

きらび香

堀井 一雄さん 静岡県伊豆の国市

【静岡支局】伊豆の国市の堀井一雄さん(66)は、静岡県独自ブランドのイチゴ「きらび香」の育成段階から関わり、18㍎を高設栽培する。

きらび香は、1996年から県農林技術研究所で交配を重ねる中で選抜された品種だ。2013年からは堀井さんを含む5人が、親株を預かり苗を増殖する現地適応試験を実施。優秀な特性が認められたため、17年に品種登録された。

「新品種には課題も多い。難題に挑むほど、やりがいを感じる」と堀井さん。過去には「紅ほっぺ」などの育成に携わってきた。きらび香の試

験時には、先端が柔らかくなる「頂部軟質果」や、まだらに白くなる「白ろう果」などが発生。堀井さんの検証で、土壌の窒素やカルシウムのバランスが原因だと判明。このような成果が、その後の安定生産につながっている。

また、地域農業を担う人材育成にも力を注ぐ。05年から新規就農者の研修を受け入れ、これまで30人以上が独立就農した。「技術と経験を伝え、成長する姿を間近で見ることが喜びを感じる」と堀井さん。互いに助け合う「手間返し」の精神が地域に根付いており、元研修生同士も交流サイト(SNS)でつながり、災害時などに助け合うという。

紅ほっぺを87㍎栽培し、イチゴなど5品目の果実の食感を楽しめる「ベリッチジャム」を販売する長男の和雅さん(41)が代表の伊豆ホーリーズ株式会で会長も務める堀井さん。今後について「さらに早い時期から、より多く安定的に出荷できるよう工夫を重ねたい」と話す。(吉永)



生育状況を確認する堀井さん

育種も人材育成も協力